

可能性あふれる中津川市の未来を築くために

1951(昭和26)年、中津町と苗木町の合併により中津川町が誕生。翌1952(昭和27)年4月1日には、岐阜県で6番目の市制を施行しました。今年、中津川市では市制70周年を記念するさまざまな事業を計画しており、5月14日には記念式典を開催します。そんなひとつの節目の年を迎えるにあたり、青山節児市長を訪ね、期する思いや目指すまちづくりについて話を聞きました。



中津川市長
青山節児 (あおやま・せつじ)
1951(昭和26)年5月5日、中津川市生まれ。1976(昭和51)年高千穂科大学(現高千穂大学)卒業。東美濃農業協同組合の常務理事、代表理事を歴任。2012(平成24)年1月22日、中津川市長就任。現在3期目。趣味はスポーツ観戦、神社仏閣めぐり、読書、頭の体操

昭和・平成の合併による 地域の拡大と産業の多様化

「私の任期中に70周年を迎えたわけですが、その節目の年に関わったのは感慨深いものがあります。そして、これからの10年、20年先を見据えていくなかで、若い人たちに次の時代を託すことができるまちづくりを、しっかりとしていかななくてはならないと改めて思う次第です」と青山市長は市制70周年の感想を話します。

場町として栄えた中津川。1902(明治35)年に中央本線が中津川駅(当時は中津駅)まで開通したことが、当地にとって大きな転機となりました。駅周辺には商業地域が形成され、鉄道で名古屋と結ばれた利便性により、製造業の進出が進み、工業が発展していきました。近年、中津川はものづくりのまちというイメージが強いですが、その萌芽はこの時代にさかのぼります。

市の可能性を大きくしました。さらには2005(平成17)年、7町村と合併して新たな中津川市が生まれ、北部の豊かな森林資源などが加わり、商業、製造業、農林業、畜産業、木工業と、産業分野において多様な魅力が備わったのです。

先人が培ってきた市の魅力を受け継ぎ、次世代へつなげていくのが自身の使命だと、青山市長は繰り返します。そのバトンを託す相手である若い人たちの地元定着こそ、今後力を注ぐべき重要課題として、取り組んでいくとしています。

リニア開業を見据えながら まちの持続的発展の実現を

「今から6年ほど前、消滅可能性都市という言葉が出たときには、大変ショックを受けました。東濃地域の自治体の名も見えませんでした。何を目的に中津川へ足を運んでいただけたのか。中津川市は何をすることが可能なのか。それらを検討していくなか、リニア中央新幹線駅は大きなアドバンテージだと捉えています」と青山市長。

開業すれば名古屋まで約15分、東京まで約60分と、大幅な利便性の向上となり、さまざまな経済効果による市の発展が見込めます。市ではリニアを活用したまちづくりに向けて、リニア駅へのアクセス道路、(仮称)神坂PAスマートインターチェンジ、青木斧戸線など、多くのインフラ整備を進めてきました。

中津川駅周辺の中心市街地の活性化も並行して図っています。青山市長は、人やものが行き交うなかで文化を育んできた宿場町の歴史も、市

若い人たちに
次の時代を
託すことが
できるまちづくりを

の魅力として残していかななくてはならないとしており、現在、建設が進む(仮称)市民交流プラザを、市民はもちろん、市外からの訪問者も交流できる拠点として活用していきたいと話します。

「リニア駅周辺エリアについては、陸のハブ空港的な役割を想定していき、今の中心市街地と同じものをつくるつもりはありません。新旧の市の顔(駅)とその周辺地域整備による相乗効果を生かしつつ、持続的発展ができるまちづくりを目指していきます。さらには市民の皆さんの生活に関わる医療や教育、安心安全の構築といった事業も継続して実施しながら、次の80周年を笑顔で迎えたいと思っています」

Event Info

市制70周年
記念式典 5月14日(土) 10:30~
中津川文化会館にて
※新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して実施予定

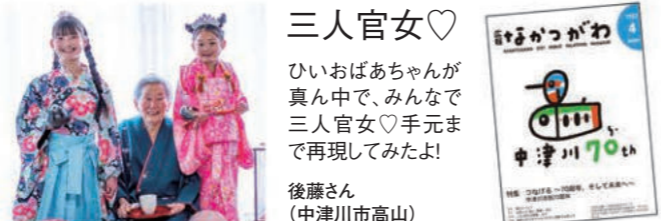
「つなげる〜70周年、そして未来へ〜」をテーマに展開する記念事業。式典では「先人から受け継いだものを若い世代へつなげていく」というメッセージを発信する場として、市内の全高校が進行や音楽演奏など、各校の特色を生かした役割を担います

Column 2 広報なかつがわ 出張版

「広報なかつがわ」で市民の皆さんから募集している写真とメッセージを、「maika」にも特別に掲載。応募者にはクリアファイルや缶バッジなどの記念品をプレゼントします。募集期限は12月31日(土)まで。ぜひ応募してみてください。

応募写真の要件

- 世代間のつながりが感じられる写真
- 市内の次世代につないでいきたい風景や、モノの写真



Column 1 中津川の未来年表

次の未来に向けてこの地域はどのように変化していくのか。気になるちよっと先のワクワクする主な出来事をご紹介します。

青木斧戸線 供用開始

国道19号と257号を円滑に結び、利便性の向上と渋滞低減を図ります。また、中津西部地区の避難所へ大型車が進入できる防災道路として、青木斧戸線から西小学校までの道路を整備します

(仮称)市民交流プラザ オープン

「ひとと、まち、未来を元気に交流と学びとにぎわいの拠点」として建設される施設。市民交流機能、観光機能、学び機能(図書館)、子育て支援機能を有しています

(新)福岡小学校 開校

福岡地区の4小学校を統合した小学校で、木をふんだんに使った新しい校舎です

(仮称)神坂PAスマートインターチェンジ

岐阜県最東端の神坂PAに、スマートインターチェンジが併設。馬籠宿への観光が便利になるほか、市民にとっても高速道路へのアクセスが向上します。現在供用開始に向けて整備を進めています

リニア中央新幹線駅 周辺整備

リニア開業に向けた駅周辺の整備が本格化。区画整理を進めており、企業誘致のための事業用地も整備していきます

青木斧戸線



現在の様子

青木斧戸線



完成イメージ

(仮称)市民交流プラザ



1階 ホールイメージ

(仮称)市民交流プラザ



2階 一般開架イメージ

リニア中央新幹線駅周辺



親水公園イメージ

リニア中央新幹線駅周辺



自由通路イメージ